

## 8. 紙資源節減への取り組み

### 取り組みの総括

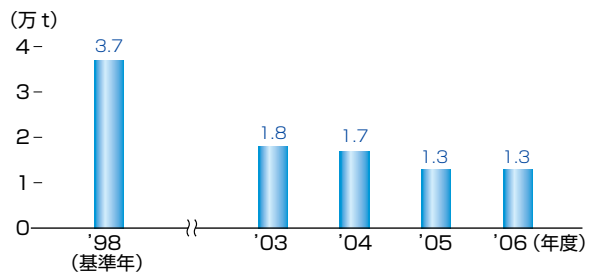
当社では、「2010年度に、純正パルプ総使用量を4.0万t以下にする。」ことを中長期の行動計画目標に掲げて活動をしてまいりましたが、2006年度時点において2010年度の「純正パルプ総使用量に対する目標値」を大幅に達成し、かつ紙

資源の利用で大半を占める電話帳に関する古紙配合率が技術的に限界に達していること、また事務用紙の再生紙購入が100%定着したことなどから、行動計画目標ではなく数値管理項目としてさらなる削減に努めることとしています。

### 2006年度の実施結果

2006年度の純正パルプ総使用量は昨年度実績1.3万tを維持することができました(右図)。

純正パルプ総使用量の推移



### 電話帳における再生紙利用

当社では、1年間に約6,300万部の電話帳を発行しており、紙の総使用量は約3.5万tに達します(図1)。

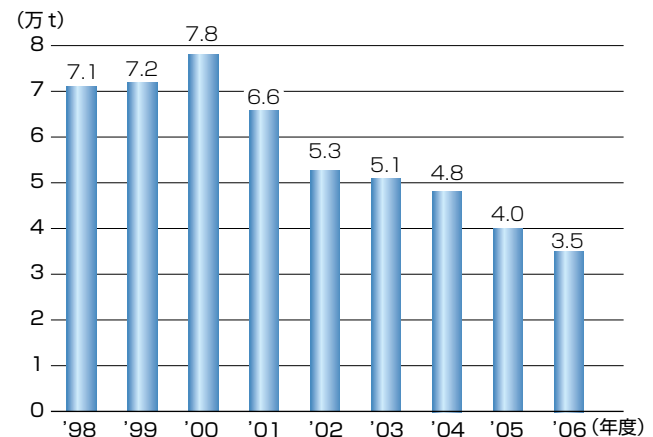
発行部数の多さは利用価値の高さを物語っていますが、これだけ紙を使う電話帳だからこそ、環境に配慮した様々な取り組みをあわせて行い、電話帳事業活動とその環境負荷低減の両立を図っています。具体的な取り組みはエコチャレンジ! 電話帳(※1)のホームページでも紹介しています。



※1:エコチャレンジ! 電話帳

エコという言葉でエコロジー=環境を表現し、チャレンジという言葉で行動姿勢を表現したもので、環境への積極的な取り組みを行うことを宣言するスローガンです。

図1 電話帳の紙使用量



### 純正パルプの使用量削減

純正パルプ使用量の削減に向け、電話帳の発行にあたっては過去から様々な取り組みを実施してきました。

電話帳用紙は、木材チップ(写真)を原材料とした純正パルプ(※2)と古電話帳等を原材料とした古紙パルプをブレンドして作られていますが、環境保護の観点から古紙パルプの使用量(配合率)の割合を年々増やし、純正パルプの使用量を減らしています(図2)。

また、電話帳の発行部数の適正化を図るため、新しく電話を引かれるお客様や引越されるお客様には電話帳の要否確認の徹底をはかり、ご不要なお客様には配付を控えさせていただきます。更に、ハローページを企業名編と個人名編に分冊し、個人名編については、事前にお客様のご要望を確認したうえで作製し、ご希望されるお客様にのみへ配付

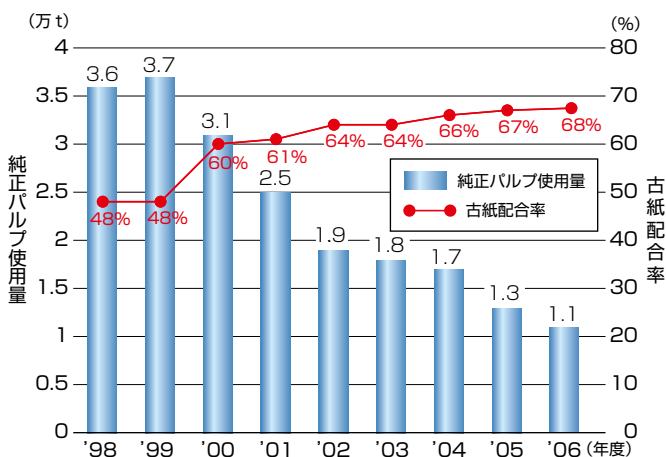
する取組みを2001年7月から実施しています。

また、2003年度から、従来のタウンページを、「必要な人に、必要な情報を」をコンセプトに、日常生活でよく利用される業種を掲載した「デイリータウンページ」と、事業活動で利用されるB to B関連業種を掲載した「ビジネスタウンページ」に分冊し、「ビジネスタウンページ」については原則事業所のみへの配付としたことで、電話帳用紙の削減に繋がっています。

2007年度も継続的な削減に努め、2006年度実績の1.1万t以下を目標に取り組んで参ります。

※2:電話帳用紙の品質を一定以上に保つため、純正パルプの使用は必要不可欠ですが、森林資源の直接消費を抑えるため、家を建てる際に使用された木材の残材などを使用しています。

図2 電話帳純正パルプ使用量と古紙配合率の推移



木材チップ



## 電話帳リサイクルの推進

### ■「電話帳クローズドループリサイクルシステム」を確立

古い電話帳を新しい電話帳用紙に再生する循環型リサイクルシステムとして「電話帳クローズドループリサイクル」を確立しました(図3)。

クローズドループとは閉じた輪、つまりあるものを同じものに再生していくリサイクルシステムのことです。資源の無駄を最小限にするシステムと言われています。回収した古い電話帳を古紙パルプとしてリサイクルすることで新しい電話帳に確実に再生しています。

このシステムを実現するため、第一段階として、白色用紙を使った電話帳(※3)の発行を2000年2月から始め、2001年3月には全ての電話帳がこのタイプに切り替わりました。

図3のように回収された電話帳は製紙会社で電話帳用紙に再生され、印刷・製本を経て、新しい電話帳に再生されます。全国のお客様にご利用いただいている電話帳は、このような仕組みで再びお客様のお手元に届けられます。白色用紙で作られた電話帳を回収し、その電話帳を再生紙として使った新しい電話帳は、2001年9月から発行しています。

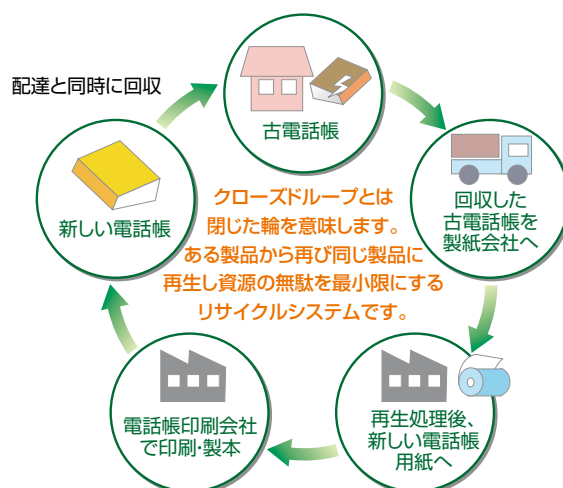
### ■古電話帳の回収拡大が電話帳クローズドループリサイクル成功の鍵

本リサイクルシステムを進めるうえで必要不可欠となるのが、原材料となる古電話帳の回収拡大です。新しい電話帳をお届けする際にご利用期間の過ぎた電話帳の回収を徹底し、ご不在の場合は、タウンページセンタ(※4)へご連絡いただければ無料で回収に伺っています。こうした取り組みにより、古電話帳の回収量を高く維持しています(図4)。

今後さらに、これらの古電話帳回収拡大に向けた施策を積極的に進めた上で電話帳クローズドループリサイクルを実施し、純正パルプ使用量を最小限にすることで、循環型社会の実現に貢献していきます。

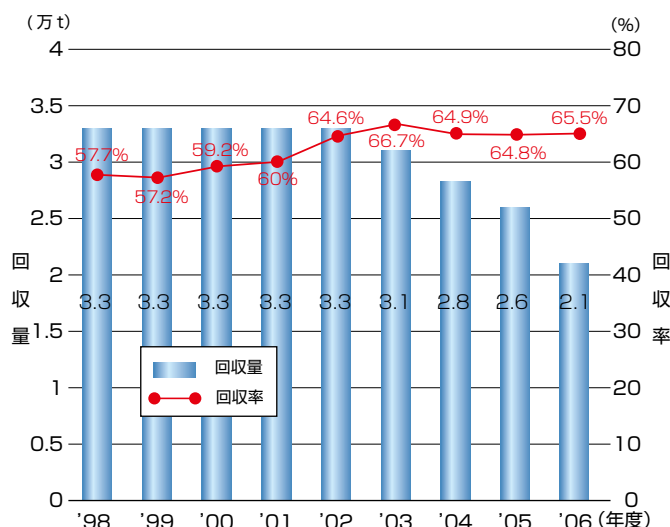
※4 タウンページセンタ:  
TEL0120-506-309 (平日9時~17時、土曜、日曜、祝日、年末年始は休業)  
FAX0120-817-548 (24時間)

図3 電話帳クローズドループリサイクル



※3: 職業別電話帳は世界各国で「イエローページ」と呼ばれており、その名の通り黄色用紙が使われています。当社の職業別電話帳(タウンページ)も、日本版イエローページとして黄色の染色再生用紙を使用していたことが問題でした。このため用紙自体を白色再生用紙に変え、白色用紙に黄色のインクを塗布することで黄色の紙面を作る方式を採用しました。

図4 古電話帳の回収量と回収率の推移



## 電報台紙における再生紙利用

当社では、電報台紙の紙部材への再生紙利用促進を図り、純パルプの使用削減に取り組んでいます。電報メッセージをパッケージングする電報台紙は、慶祝・弔慰・一般紙を合わせ64種類(2007年3月末現在)あり、紙を使用したものや布地を素材としたものがあります。2006年度に取り扱った電報通数は976万通(全国1,861万通)に上り、このうち紙製電報台紙による紙総使用量は759tです。電報台紙などへの再生紙導入の取り組みとして、紙製台紙を用いた新商品の開発時や、既存台紙のリニューアル時に古紙配合率を上げるなどの取り組みを進めてきました。

2006年度は、紙製台紙の純正パルプ使用量の年度目標値(対前年度15%削減の156t)に対し、使用量実績を155t(対目標値1t減)に抑えて目標を達成し、紙総使用量に対する古紙配合率は80%を維持することができました。また、地球温暖化防止への貢献を目的に花の種のついた電報台紙の開発を検討してまいりました。

2007年度は、お客様ニーズに合致した新商品を多数発売予定であり、引き続き、開発にあたっては古紙配合率を高めた仕様を目指しております。また、地球温暖化防止への貢献を目的に花の種の付いた「環境保護電報」の開発(2007年7月販売開始)を行っており、電報を受け取った方が、花の種を植えていただくことで、緑を増やす取り組みを行っています。

紙製台紙の他に、「キティちゃんDENPO」、「ドラえもんDENPO」、「くまのプーさんDENPO」、「ミッキーマウスDENPO」、「ミニーマウスDENPO」、「アンパンマンDENPO」などの布地を素材としたぬいぐるみ型の電報があり、これらの本体素材にはセミダルボア生地又はベルボア生地(いずれも1974年度厚生省令第34号アセチルアセトン法

《ホルマリン含有量75ppm以下》に適合したもの)を使用するなど、環境に負荷を与えない素材を使用しています。また、メッセージを入れる紙筒にも古紙を利用するなど、純正パルプ使用量削減にも取り組んでいます。

今後も電報台紙の開発については、古紙配合率を高めるとともに、「環境負荷のより少ない素材」を使用する取り組みを推進していきます

おし花電報「彩り」



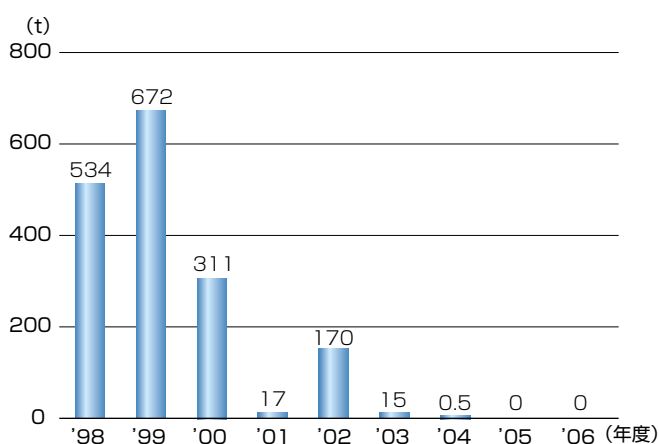
刺しゅう電報「孔雀」



## 事務用紙の純正パルプ使用量削減

事務用紙については、100%再生パルプを用いて製造された再生紙に切り替えたことから、2005年度より事務用紙における純正パルプの使用はなくなりました。今後は、紙使用量そのものの低減を継続して進めていきます。

事務用紙純正パルプの使用量の推移

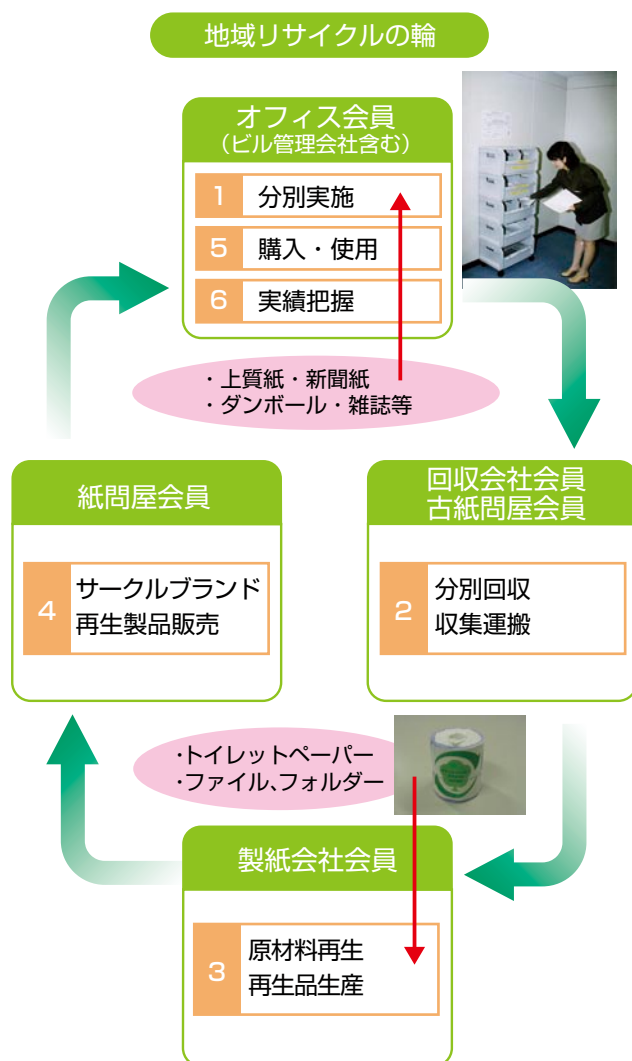


## 活動トピックス

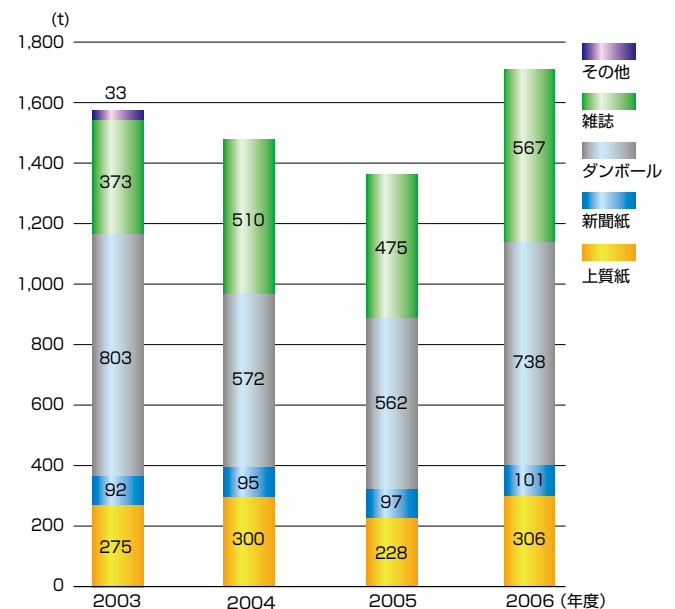
## ■「オフィス・ペーパー・リサイクルかなざわ」の取り組み

1995年8月に通産省の古紙再利用分野開拓事業補助金を受けた「地域完結古紙リサイクルシステムモデル事業」を実施するため、(財)古紙再生促進センターに「地域完結リサイクルシステム金沢地区委員会」が設置され、同年10月に「オフィス・ペーパー・リサイクルかなざわ」が設立されました。「オフィス・ペーパー・リサイクルかなざわ」とは、地球規模の環境問題や地域のゴミ問題に少しでも貢献するため、「地域での古紙リサイクルの輪」を完結させている、金沢市およびその付近の企業・法人および団体が集まっているサークルです。

当サークルでは、オフィスから排出される使用済みの紙(コピー用紙等の上質紙・新聞紙・ダンボール・雑誌等)を分別して回収するとともに、回収した古紙を原料として再生した製品(トイレットペーパー・フラットファイル等)を会員自らが積極的に購入・使用しています。当取り組みは本年で10年を迎えました。事務局は、北陸電力(株)石川支店・西日本電信電話(株)金沢支店の二社が合同で運営しています。



オフィス・ペーパー・リサイクルかなざわ」回収実績の推移



※「オフィス・ペーパー・リサイクルかなざわ」総会における実績値